

岡山市子ども・子育て会議

就学前教育・保育部会（第1回）

日時：平成25年10月8日（火）14:15～15:15

場所：岡山市職員研修所（ほっとプラザ大供内）3階「第3研修室」

開会

委員・事務局自己紹介

資料確認

議事

・成立確認

委員13名中12名出席（小川部会長欠席）により、過半数を充足し、成立を確認。

（同前委員が部会長の職務を代行）

・保育園・幼稚園に関する検討会議について【経過報告】

事務局（説明）

委員 一定の教育・保育提供区域内の施設数などについては、子どもの人数、通える範囲等を考慮し、これから詰めるということで良いか。

また、公立施設の活用について、公立幼稚園に私立保育園が分園として入る動きもあると聞いているが、公立幼稚園を6年生まで対象範囲が広がる放課後児童クラブで活用することは、ここで議論すべきことか。

事務局 現状の幼稚園の余裕教室の有効活用の一つの方法として、私立の分園がある。それから、放課後児童クラブの場所の確保も大きな問題としてある。こちらの部会としては、余裕教室の活用の考え方について意見をいただきたい。ただ、岡山市全体としては、事業計画の中で放課後児童クラブも取り扱うため、親会議と調整し、最終的には岡山市の判断になる。

部会長代行 教育・保育提供区域についての質問に対する回答は。

事務局 今後、区域の中の施設を「在り方」の中で謳っている10の指標を基に、具体的にエリアごとで議論をする。そのために、事務局案を出し、意見をいただき、修正していく。

分園についても、現時点で決定している訳ではなく、組み合わせの一つとしてお話しており、放課後児童クラブも利用目的の一つとして考えられる。

委員 試行園について、中山・岡南・太伯の建築年数は、どのくらいか。

事務局 今、具体的に何年という話にはならないが、岡南幼稚園・保育園は40年を超えている。それから、耐震化の工事は、岡南保育園と中山保育園で必要となる。

本来は建替をしたいが、資源の有効活用を図るため、幼保一体化の中で、一つの施設として活用するために必要なものを整備し、併せて、耐震化・老朽化へ対応していく。

委員 いずれ建替をするのに、改修を行うことはもったいないのではないか。

事務局 建替になれば、少なくとも1年以上、お子さんが入れない期間が出る。保留児が非常に多い中で、その施設に通うお子さんは、建替の期間中、保留児、若しくは、待機児になる可能性が非常に高い。今は大規模改修ではなく、最低限の改修で対応しつつ、統廃合・民営化も含めて、他の施設を整備し、財源的にも人力的にも余裕ができたところで、建替を進めていく予定である。まず、保留児の解消が第一目標。

委員 スケジュールについて、12月の協議内容に、「保育園、幼稚園、認定こども園等の利用定員等について協議をする」があるが、これは、来年度入園のことを言っているのか。

事務局 早くても27年4月、再来年の4月の入園を目処としている。

委員 来年の入園に係る募集は、現行制度のままか。

事務局 従前どおり。

委員 中学校区が分割される区域の割り方はあってはいけない。これから将来を見据えた教育をしていく上で、中学校区が割れることは絶対無いようにしてほしい。

事務局 検討会議で、第5回に出した案の中に、中学校区を分割するものがあった。第6回で、中学校区を分割しない修正案を出している。

委員 保育園の入園について、就労の場合、3日以上かつ1日4時間以上就労が最低条件と保育園の入所規程のところにある。公務員の育児短時間勤務の場合、保育園に子どもを預けられない。制度上の不具合だと思うため、見直しを早急に検討してほしい。

事務局 公務員の短時間勤務が保育に欠けるかどうかというのは、実態を見て判定する。ただ、基本的には今まで週3日以上、一日4時間以上が原則。今後、認定こども園制度になると、短時間勤務や求職活動中など、門戸を広げることを言われているため、併せて見直しを図っていく。

委員 新制度では検討されるのかも知れないが、来年4月に入園される方はどうなるのか。

事務局 短時間勤務の公務員が、保育に欠けるかどうかは別の問題。この場で制度の修正が必要かは判断できない。

・その他（支援事業計画の策定について）

事務局 （説明）

部会長代行 資料についての説明だった。質問は無いか。

（質疑なし）

・閉会